



モリサワ「文字文化フォーラム」 冷泉家の歴史と文化

三月一六日、モリサワ新社屋落成を記念して、特別講演会「冷泉家の歴史と文化」が開催され、二百名を超える盛況ぶりです。コスモス会からも一四名が参加しました。

四階に設けられた大ホールは、公共の広場として講演会やシンポジウムを開催していくそう、その第一回としての「文字文化フォーラム」ということであった。

講師の冷泉家二五代当主、冷泉為人氏は一時間半にわたって、冷泉家の長い歴史と現在について軽妙洒脱に語り、場内はしばしば笑いに包まれ、大いに沸いた。

藤原綾成「古来風躰抄(こらいふうていししょう)」(国宝)

のスライドでは、「初めて見た時、全身に鳥肌がたち、これらを守っていくのが自分の一生の仕事だと啓示を受けた」と語られたが、私もあの文字には心が震えた。およそ千年前の書である。現代の書画展のものよりずっと斬新である。文字をつうじてみたとき、人間は少しも変わっていないと、あらためて意を強くした。

「文化不毛の地」と言われて久しい大阪に、このような試みが発足するのは、文字に関わる者として嬉しく、楽しみが増えた。

「さすがモリサワさん！」とエールを送り、今後も期待したい。

木原由美子

OGS総会

場所：シティプラザ
日時：5月28日
16時30分 受付開始
17時 総会
18時 懇親会

※本年度は役員改選のため時間が多少変更する可能性があります。

2010ジャグラ文化典 香川大会

場所：香川県高松市
サンポートホール高松
日時：6月10日～13日

詳細は決定次第お知らせ致します。
申込書(別紙)を同封していますので出欠を早めにお願致します。

香川県の観光案内

「坂の上の雲」新聞連載の壁...
1296回にわたって産経新聞紙上に連載された「坂の上の雲」を展示。

ライブラリーラウンジ...小説「坂の上の雲」や明治時代に関する書籍や資料画像の閲覧が可能。



松山城天守閣 大天守は三重三階地下二階の層塔型天守で、黒船来航の翌年落成した江戸時代最後の完全な城郭建築です。また、「現存12天守」の中で、唯一、築城主として瓦には葵の御紋が付されています。

大天守、小天守、隅櫓を廊下で互いに結び、武備に徹したこの天守建造物群は、わが国の代表的な連立式城郭といわれています。

大天守の全高は、現存12天守の平山城の中では最も高い城郭です。山の高さは、同じ平山城である姫路城の約3倍の高さです。

第51番霊場石手寺 神亀5年(778)聖武天皇の勅願により伊予の太守越智玉澄が開創したのが始まりで、翌年行基菩薩が薬師如来を刻み本尊としたといわれ、当時は法相宗に属し安養寺といいました。のち、弘仁4年(813)弘法大師がこの地に止まり、堂塔を整えて第51番の霊場に定め、真言宗に改めました。お遍路創始者である衛門三郎が生まれ変わったといわれる河野良方が、このお寺ではじめて左の手を開き、握っていた石を落したといわれ、この伝説によつてお寺の名前を石手寺に改められたといわれています。



江戶時代、砥部は大洲藩に属しており、伊予紙の生産も盛んに行われていました。一方砥石の切出しの際に出る砥石屑の処理は大変な重労働だったので大洲藩の加藤泰候は、安永4年(1785年)に、この砥石屑を使い、家臣加藤三郎兵衛に「磁器生産の創業を命じ、加藤三郎兵衛は、現場の監督者に組頭の杉野丈助を選びました。成功までの道のりは決して楽なものではありませんでした。何回かの試焼を行い、本焼を行うていまして、何度繰り返しても同じでした。肥前の長与窯から呼び寄せた陶工たちは愛想を尽かして故郷に帰ってしまいました。最後には、赤松の薪もなくなり、半狂乱になった丈助は、家の柱や畳まで窯にくべたといいます。その様子を見ていた筑前の陶工信吉は、失敗の原因は釉薬の不良にあることを丈助に教えました。丈助は早速新しい釉薬を筑前で探し求めました。そして、2年半後の安永6年(1787)に白磁器の焼成に成功したのです。

◆第3回役員会報告◆

日時：3月12日(金) 6時半～
場所：社会福祉指導センター4Fゼミナール室
出席者：山田・田中・岡・前田・山本・森沢・深田・坂本
岩下・西本両相談役

◆会長あいさつ
◆各部会報告
サロン部会より
部員会議 4月1日開催
ゴルフコンペ
情報部会より
部員会議開催 4月
H・P委員会より
◆その他として
・引き続き20周年記念誌の表紙及びタイトルの募集
・名簿変更部分をゴシックで表示。
・OGS総会の受付を役員全員で行う。

一筆箋

小学校の修学旅行以来のお伊勢参りに行ってきました。

雨にもかかわらず、大勢の参拝客に驚きました。特に若いカップルが多く、鳥居をくぐる時、出るとき、きちんとお礼をしている態度に感激しました。

お陰参りは江戸時代に流行した集団参詣。六〇年周期で三回起こり数百年の人が伊勢神宮に詣つたそうです。日本に生まれながら、一生に一度はお参りに行くべきと言われるだけであると実感致しました。

昔の参拝の様子を二分の一に再現されたお陰座には、当時の参拝客に施しを行っている様子や賑わいの様子がリアルに表現されており、とても興味深く楽しいものでした。

翌日、松坂で下車、落ち着いたとても良い町でした。久しぶりに時間がゆっくりと流れているような一日でした。

安平タカ子

次回は山田益子さんです。